

# 山口県教育

Education of the Yamaguchi prefecture

人間性豊かに生きる — 「人間性」を求める —

# 8

令和4年 No.1326



令和3年度 第74回山口県学校美術展 推奨作品

「涼しい空にとけていく風鈴」

長門市立深川中学校 1年 (受賞時) つえなか かずは 植中 和葉

## ■スポーツ振興とまちづくり

(公財) 山口県体育協会生涯スポーツグループ

リーダー 和田 康夫

コミュニティクラブ東亜 (CCT)

会長 有賀 俊一

田布施町立田布施中学校 校長 山中 順子

## ■海は学びの宝庫

下関市立養治小学校 教頭 瀧口 稔

下関市立養治小学校 4年 工藤美衣奈

下関市立養治小学校 4年 阪口 恕宇

下関市立養治小学校 4年 三石恋々菜

## ■小規模校のよさを生かす

周防大島町立浮島小学校 校長 岡田 健志

## ■食の大切さを伝える

防府市立牟礼小学校 栄養教諭 松野 友美

## ■やまぐち見てある記

島の学び舎

一般財団法人 山口県教育会

〒753-0072 山口市大手町2-18 TEL 083-922-0383 FAX 083-922-5768

URL <http://www.ykyoikuk.or.jp> E-mail [ykyoikuk@ruby.ocn.ne.jp](mailto:ykyoikuk@ruby.ocn.ne.jp)

明治36年4月第1号 毎月1日発行 発行人 会長：倉増誠彦／編集長：西岡 尚



**あなたのアクションは**  
山口県教育会がすすめる  
「元気やまぐち」三つのアクション

- ◎あいさつ 返事で 明るいやまぐち
- ◎笑顔でつなぐ 安心やまぐち
- ◎ゴミ 落書きのない 美しいやまぐち

## 地域のスポーツ環境基盤強化を



(公財) 山口県体育協会生涯スポーツグループ

リーダー 和田 康夫

山口県体育協会で、総合型地域スポーツクラブとスポーツ少年団に関わる業務を中心に、8年目を迎えました。スポーツ少年団という名称はほぼ全国民に認知されているところですが、認知度の低い総合型地域スポーツクラブ(以下、総合型クラブ)は、最近になって新聞紙上にはしばしば登場するようになりました。それは、部活動の地域移行、いわゆる地域部活動の受け皿としてクローズアップされるようになったからです。そもそも総合型クラブは、欧米のスポーツクラブをモデルに、健康増進・医療費の削減などを掲げて、二十数年前に文部科学省が進めてきました。スポーツ少年団も地域スポーツクラブですが、多世代・多志向・多目的の3点を目玉に組織した総合型クラブは、今では全国に約3千、県内で52クラブが創設され、少しずつではありますが、各地域で結成されています。

### 地域スポーツ推進団体連絡協議会の設置

コロナ禍にあつて、社会活動が制限され、あらゆる世代の心身の健康に大きな影響を及ぼすようになりました。折しも、令和3年度に、中学校部活動の地域移行が発表され、令和5年度から段階的に移行していくことが打ち出されました。そこで、昨年度、日本スポーツ協会から「地域スポーツクラブ推進体制基盤整備事業」の依頼を受け、総合型クラブやスポーツ少年団、大学関係者などによる協議会を組織しました。

この会議では、総合型クラブへのアンケートや、すでに中学校部活動とのかかわりを持っている総合型ク



地域指導者による部活動風景(上・下)

ラブの取材などを資料として、地域スポーツ団体からの提言をまとめる方向を進めました。

### 総合型クラブが地域部活動を担うとしたら

これまで、学校教育の中で行われてきた文化・スポーツ活動は、その仕組みが大きく変わろうとしている今、総合型クラブに関わる多くの人がこの制度を知り、考え、話し合うことは、大変重要な意味をもちます。そこで、地域スポーツ推進団体連絡協議として、総合型クラブと学校部活動の連携条件(チェックリスト)の一部を紹介します。

□部活動が多様な経験の場となるようにする。  
□中学生が地域のスポーツクラブで活動し、地元で活躍できるようにすることで、次世代の指導者を育てる持続可能な仕組みを作る。

□総合型クラブの理念の一つに「子どもの育成」を掲げ、部活動の支援を「地域貢献」として位置付ける。  
□地域の協力を得やすくするために、広域部活動(校区をなくす)も視野に入れておく。  
□学校と連携し、中学生が地域づくりをする姿を発信していく。

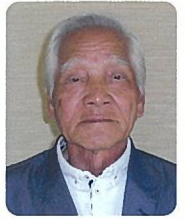
ここに紹介した条件は、総合型クラブの理念とベクトルを同じくしています。種目を固定することなく多様な経験の場が持続していく仕組みを作り、次世代につながる人材を中学生の時代から育てていくという視点を地域全体で持つことができればとの提言が盛り込まれています。地域部活動で専門的な指導を受けることができることもありますが、平日とは異なるスポーツを楽しむことも地域部活動であると捉えるなど柔軟な姿勢が必要ではないかと考えています。

私は、同時に、小学生や幼児期における運動やスポーツの場を地域で提供できる指導者を育てたいとACP(アクティブ・チャイルド・プログラム)の普及も担当しています。中学生や高校生になって、いろいろな部活動に出会ったときに、体力だけでなく、人間関係力、つまり生きる力も必要です。子どもたちが楽しい遊びを通してルールや工夫などを学んでいる姿が地域の中でもっとも思いでいっぱいです。



ACP(アクティブ・チャイルド・プログラム) 新聞紙になりきって

## 子供の健全育成を図る地域活動と部活動の地域移行についての取組



コミュニティクラブ東亜(CCT)  
会長 有賀 俊一

休日の部活動が段階的に地域移行されることで、総合型地域スポーツクラブも受け皿の一つになれるよう検討されてきていますが、まだ何も決まっていないうのが現状です。平成17年から下関市東亜大学を拠点として活動してきた当クラブでは、設立当初から「子供の健全育成を図る」を規約で定めて、地域の小中学校のスポーツや文化活動行事に参加し、支援してきています。ただし、学校単位である中学校部活動との連携は、難しかったというのが現状です。

そこで、地域の中学校との連携協議を重ね、中学校における部活動指針と当クラブ規約を擦り合わせ、かつ、保護者の理解と参画の必要性を確認し、次のような基本的合意を結ぶことにしました。

- ①名称は「勝山スポーツ教室」とし CCTのスポーツ部に所属する。
- ②休日部活動に参加する生徒は CCTに入会し、指導者は CCTの指導者として登録することとする。
- ③保護者の費用負担は CCTの規約に準じるものとする。

③ CCTは指導者に対する謝金及び施設使用料、加えて消耗品に対する購入補助をする。

④ 部活動に要する什器備品は中学校と CCTが協議し準備する。

⑤ 指導者(地域人材の確保)、恒常的な活動場所の確保は中学校と CCTが連携して決定する。

⑥ 保護者から世話人を選任し、CCT事務局・指導者及び中学校との調整をする。

⑦ 学校単位の大会(中体連等)参加については、学校が主体的に生徒の引率を含め行うものとする。

この合意に基づき、令和3年4月から、硬式テニス・陸上などの種目から開始しています。

これからのいろいろな課題が発生してくると思いますが、学校・保護者と三位一体となつて、よりよい部活動を進めれば、将来の地域スポーツ人材がきつと育っていくのだからと思いを合せています。



勝山スポーツ教室(陸上)

## 地域の中でスポーツを通して生徒を育む



田布施町立田布施中学校  
校長 山中 順子

学校部活動の地域スポーツ化が進む中、本校では、田布施スポーツクラブと連携し、学校部活動を進めている。本校では、文化部も含め13の部活動がある。田布施スポーツクラブで活動している三つのクラブを合わせると15の部活動やクラブがある。

田布施スポーツクラブと連携して行うことで、これまで幼いころから行ってきたスポーツを続けることができ、生徒や保護者の希望に応えることが出来る。そして、部員が少数人数になっても持続することが可能である。スポーツクラブの指導者は、部活動指導員の立場は取られないので日常の練習は、スポーツクラブの場合は、指導者がボランティアで指導をしてくださっている。

中体連の県大会、予選等は、学校の教員が申し込みや引率を行う。人事異動等で部活動の指導できる専門的な教員が異動した場合でも指導体制を持続していくことが可能となる。

現在、本校の教員は、いくつかの部活動とクラブをかけもちし、直接生徒を指導したり、担当者として事務的なことや生徒をサポートしたりしている。

今後は、これまで行ってきた活動内容をもう一度整理し、課題や方向性を

を町体育協会、町教育委員会、生徒、保護者、学校で十分に話し合い、全員が生徒の成長のために納得のできる方向性や体制を整えることが出来ればと考えている。

また現在、地域の方にお世話になっている生徒たちが、将来は、指導者や保護者となり中学校やスポーツクラブの支えとなってくれることを願っている。



弓道クラブ(田布施スポーツクラブ)の活動

## 海響館と連携した海洋教育プログラムの開発



下関市立養治小学校  
教頭 瀧口 稔

### はじめに

赴任して間もない令和3年4月、市立しものせき水族館海響館から学芸員と研究者の方が本校を訪ねてこられた。博学連携の一環として、本校と共に海洋教育プログラムを開発したいとの願ってもないお誘いであった。手渡された「海響館が提案する海洋教育プログラム」の冊子には、その目的として、「児童が小学校の授業をおして、水族館の多様な利用方法を学び、下関市民の生涯学習の場としての水族館の利用促進を図る」とあった。海響館は、本校から徒歩圏内にある。しかも、年間をおし学芸員の派遣や海響館での授業展開も可能との話を受け、すぐさま総合的な学習の時間における授業実践として位置付けることにした。

### みんなで応援！来て！見て！知って！海響館！

第3学年の総合的な学習の時間として、年間38時間の単元を設定することにした。本校の児童が、海響館で働く人々や飼育・展示されている生き物に繰り返し関わっていく中で、海峡の街下関を象徴する海響館の魅力に気付いたり人々と協働して課題を解決したりすることは、人々や社会への関わり方を考え、未来社会を切り拓く確かな資質・能力が育成できるのではないかと考えたのである。単元の導入では、海響館の学芸員である園山さんと井上さんに、「下関はフクが有名なのに、フク水槽の前で立ち止まって興味をもって見てくれる来館者が少ないし、市内からの来館者があまり増えていない」との話をしていた。ぜひ海響館のために力を貸してほしいとの依頼を受けた子ども

たちからは、「どのフクがいいかおすすすめを会って言う」や「フクが下関で有名になるように頑張りたい」などの意見や感想が出された。

その後、養治小学校・地域・海響館の3連携の取組として、海響館学芸員、フク漁師、フク提灯職人、水産大学のフク毒研究者、フク処理師との遠隔授業（一部は対面）を実施した。特に、フクの有毒部分を取り除く身欠きの技術を披露したフク処理師の実演を目の当たりにした子どもたちからは、「毒を金庫に入れて保管することを初めて知ったので、みんなに教えてあげたい」などと意気込む声が聞かれた。

### フクと出会う旅

新型コロナウイルスの感染症対策として、「オンライン水族館」や「遠隔授業」が長らく続いていたのだが、11月になりようやく海響館を初訪問できることになった子どもたちは、学校から海響館までの道すがら、フクを見付けようと必死になって探し歩いた。すぐに見付かったのが、フクをモチーフにした下水道のマンホール。その数は優に200を超え、各所にあるフクの像とも対面を果たした。さらに、授業で顔馴染みになった業者の方から巨大なフク提灯も見せてもらう機会に恵まれた。その後、フクの



フク提灯の見学風景

仲間が常時100種以上と世界一の展示数を誇るフク水槽や展示物を熱心に見学し、調査した内容をタブレット端末にまとめていった。

### めざせ！子ども学芸員

全5回にわたる講師をお招きした3連携授業、海響館での調査活動、徳山小学校との交流授業、海響館営業部の方

による講話などを基に、子どもたちは自ら学び取ったフクのもつ魅力について多くの人々に発信しようとプレゼンテーションの準備を開始した。合言葉は「めざせ！子ども学芸員」である。フクの特徴、フク毒、働く人の思い、フク提灯の四つのグループに分かれて、タブレット端末を活用したプレゼンテーションの資料作りに子どもたちは没頭していった。感染症拡大による行動規制が影響し、当初予定していた来館者への発表は叶わなかったものの、海響館スタッフに向けたオンラインによる発表会を令和4年3月に開催することができた。発表後、海響館の石橋敏章館長から「海響館こども学芸員証」を受け取った子どもたちの学びへの情熱は、4年生に進級した今でも続いており、昼休みに海響館の学芸員である園山さんと井上さんに電話で質問する姿が後を絶たない。

### 海洋教育によるよりよい未来社会の構築に向けた挑戦

令和4年度、本校は海洋教育パイオニアスクールの指定校となった。4月には、海響館より関門海峡の魚類の生息調査の依頼を受け、子どもたちはその調査方法についての話し合いを進めている。海洋教育に関する保護者アンケートでは、生物への関心が高まったことで理系大学への進学を考え始めたとの声も聞かれた。身近な関門海峡の海洋環境や海洋生物と関わり続ける中で、海を取り巻く様々な「いのち」に目を向け、今自分のできることを考え実践していく学習経験は、きっと今後の未来社会を切り拓く力になると信じている。



海響館での展示準備作業

私たちは、こども学芸員！



下関市立養治小学校  
4年 工藤 美奈奈

私が3年生の時、海響館から「こども学芸員になる」ミッションを受けました。私たちのグループ名は「フグの特徴」です。私は、その中でも「フグの毒」について話しました。グループのみんなと助け合ったり、アドバイスをし合ったりしました。また、6年生が「この写真を使ったら分かりやすいよ」「この言葉を使ったら分かりやすいよ」とアドバイスをたくさんくれました。みんなと協力して、とてもいい発表ができました。

さらに、私たちは考えました。養治小学校には、学校を盛り上げてくれる「養治レンジャー」がいます。盛り上げたいという気持ちが強かったので「海響レンジャー」をつくりました。5人で海響レンジャーをしました。台本を作って練習をしました。台詞が覚えられなくて、失敗することが何回もありました。「やめたいな」と言ったら、台本を作った人が「覚えられなかったら台本を少し変えてもいいよ」と言ってくれました。その後、徐々に失敗は減っていききました。本番では、みんな完璧でした。立派な海響レンジャーでした。

4年生になり、新たなミッションができました。そのミッションは「海響館にいない魚を調べよう」です。まだまだ、ミッションは終わりません。さらに、3年生が仲間に入りました。3年生のミッションは「謎の魚の正体を探る」です。3年生と4年生でミッションを達成したいです。



海響レンジャー

友だちの存在



下関市立養治小学校  
4年 阪口 想宇

ぼくは、1年生として入学したばかりのことを思い出しました。学校のことは何も知らなくて、友だちはいませんでした。でも今は、4年生20人全員が友だちです。

3年生のときに、みんなが「こども学芸員」になることができたのも友だちがいたからです。ぼく一人だけだったら、こども学芸員になることはできなかったと思います。グループの友だちや先生方にアドバイスをもらったから、いいプレゼンテーションができました。



海響館での調査活動

今は、4年生になり、新しいミッションである「海の調査」に向けて海響館の学芸員さんに電話をしたり、ウェブで検索したりしています。去年学んだことを生かしながら、3年生とも協力して頑張りたいです。

調べたり、発表をしたりすることの楽しさが好きです。さらに「海洋教育」を通して知ることができたことは「友だちの大切さ」です。今年も3年生と一緒にやるので、友だちを増やしたいです。4年生として、こども学芸員として、友だちや3年生を大切に思いやりながら、ぼくたちの力を発揮したいです。

今回は、4年生の代表として書いたので、伝えたいことを胸いっぱい届けました。これを見てくれたみなさん、ありがとうございます。また、いろいろなことに挑戦して、頑張っていきたいと思います。

3年生との協力



下関市立養治小学校  
4年 三石 恋々菜

私は、海響館や3年生とのコラボ授業をしています。初めの頃は「総合でどんな勉強をするのかな」と思いました。ですが、学習に慣れていくうちに、どんどん楽しいなと思えてきました。今は、釣りざおのことを考えたリ、ライフジャケットをペットボトルで作って、学校のプールで浮くかを調べたりしています。

図書室で友だちと海の本について調べています。たくさん知ることができて、自分だけではないうかなと、次から次に考え中です。みんなのために活躍できる人になりたいです。

海のことを勉強しながら、1年生からの友だちや3年生とも協力して、もっと活躍できる4年生になることができました。素晴らしいと思います。そして、いつまで海響館との学習が続くのかは分かりませんが、今の2年生も一緒に活動することができたいと思います。いつかは、私たちが頑張っている海について調べて、養治小学校のみんなと海響館と学習をするみたいなんです。

以前は「総合でどんな勉強をするのかな」と思っていました。今はみんなと協力しながら新しい発見ができるのも楽しい勉強です。



ふぐ処理師によるトラフクの身欠き実演

## 離島・極小規模校における

## 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて

## ICTの有効活用と体験的な活動を重視して



周防大島町立浮島小学校  
校長 岡田 健志

浮島小マスコットキャラクター



イワッシーファミリー

**地域の実態**  
周防大島の沖合約5キロに浮かぶ浮島は、周囲が好漁場で多くの魚が水揚げされています。6月から12月は、鰯網漁が盛んで、加工場も5つある漁業の島です。児童数は、昭和35年の156名をピークに、平成20年頃からは、10名前後で推移しており、現在、10名（1・2年複式、3・4年複式、6年単式）の3学級です。

**研究の背景**  
学校では、多くの人の前でも堂々と自分を表現できるようにとの思いから、島の伝統芸能である「えびす舞」を全校児童が披露する場や、自分の思いや考えをしっかりと相手に伝え合う全校フリートークの場を設定し、表現活動に取り組んでいます。



島の伝統芸能「えびす舞」

しかし、少人数の学びは対話の機会や刺激が少なく、単調な学習になりがちで、学習意欲の持続や学習の深まりに課題が見られました。

そこで、他校の児童と交流するためのICTの効果的な活用や、地域の大人とふれ合う体験的な活動を取り入れることで、学びの意欲を膨らませ、対話力を高

めるとともに、確かな学力を身に付けることができるのではないかと考えました。

### 実践事例

- (1) 対話的な学びを促すリモート学習の充実（一人学級の道徳科の学習）  
3年生の児童は1名で、自分の思いや考えを表現したり、新たな見方や考え方を発見したりしていくことを苦手としていました。そこで、近隣の小学校の、3・4年7名と道徳の学習で定期的にオンライン授業をすることにしました。本校教員が主となり、本校の児童には、大型モニターに相手校の教室を映し出し、相手校の児童には、本校教員と板書を映し出すとともに、発表する際は一人ひとりのタブレット端末で発言させることで、大勢で学習している雰囲気をつくりだしました。また、心情モニターや、子どもたちの記述を大型モニターに表示することで、児童の思いや考えを視覚的にも共有できるようにしました。
- (2) 体験的な活動の充実（本物に触れる総合的な学習の時間）  
本校の玄関には、「浮島水族館」という水槽があり



道徳のリモート学習

ますが、飼育活動は中断されてきました。5年の児童2名は水槽を眺めながら、なんとか自分たちの手で「浮島水族館」を復活させ、本校を訪れる方々に喜んでもらいたいという思いを膨らませていた実態を捉えて、「復活！浮島水族館」という単元を設定しました。

ここでは、「浮島水族館」を復活・維持するための課題を明確にし、それを解決していくことにしました。そこで、周防大島にある「なぎさ水族館」の飼育員や漁師である児童の父親をゲストティーチャーとしてお招きし、自分たちで調べまとめた計画やこれまでの取組をプレゼンし、その方々に評価していただきながら、取組を改善できるようにしました。

### 活動の成果と課題

3年の児童は、その後の学習で、自分の思いや考えを表現できるようになりました。担任が児童にどうしてたくさん発表できるようになったかを問うと、「いろいろな発表を聞くことで、今まで気付かなかった見方や考え方ができるようになった」と答えていました。5年生の児童は、体験的に学ぶことで、「命を育むことの大切さや難しさを伝えたい」「説明掲示板を作りたい」といった新たな課題への挑戦が始まりました。本物に触れる体験ほど、学習意欲を喚起させるものはありません。確かな体験や情報は、児童の学び方に自信を与えてくれました。今後、児童が主体的に考え、話し合えるようなリモート学習の工夫や新たな地域連携カリキュラムの構築を行いたいです。

### 今後の展望

現在、ICTの発展により、様々な交流が可能となってきました。極小規模校におけるかわり合いによる学びの活性化を図るために、ICTを積極的に活用し、小小連携による複式解消や交流学習の充実、特別支援地域コーディネーターによる学習支援などの取組を行い、児童のさらなる学力向上を図っていきたくと考えています。



ゲストティーチャーをお招きした総合的な学習の時間

防府市から学校給食で元気を届けたい



防府市立牟礼小学校

栄養教諭 松野友美

新型コロナウイルス感染拡大の中、「子どもの命を守る」ための一斉臨時休業は、ほぼ全国の学校において、令和2年3月から例のない長期の措置となりました。防府市でも本格的な学校再開は、約3か月後の5月25日からとなりました。

この間、成長期の子どもたちにとって学校給食のない日が続き、子どもたちの健康課題も大きくクローズアップされました。友だちとも遊べない、外にも行けない状況による心の不安定さや、家庭における保護者の負担の増大などを思い、子どもたちの健康や食生活に関わる者として、憂慮しました。学校生活が再開した時に、保護者の方々から毎日の食事の準備が大変だったという声を多数お聞きして、不測の事態に備えて、学校給食レシピのパンフレットを作成したいと強く思いました。

そうした中で、防府市教育委員会から、家庭での食育を推進することを目的に、市立小中学校で提供している給食献立の中から選りすぐりのレシピを掲載した学校給食レシピ集「ぶっちょーおいしい！きゅうしょくレシピ」作成のお話をいただきました。今回教育委員会からお話がなければ、私の夢で終わっていた給食レシピ集を、2年後にはトントン拍子で作成する事が出来ました。この場をお借りして、関係各位の皆様にお礼を申し上げます。

その他 もおちゃんのミルク鍋 地産地消

学校給食レシピ集  
「ぶっちょーおいしい！きゅうしょくレシピ」

学校給食の献立を立てるときに気を付けていることは、栄養バランスは勿論のことですが、学校給食の目標も意識しつつ、自然の恵みや四季の変化を感じられるように旬を意識したり、地元でとれた新鮮で安心安全な食材を使用する地産地消に取り組んだり、昔から伝わる伝統的な食文化を伝えるべく郷土料理や行事食を取り入れたりしています。また、食事の内容に統一感をもたせ、味付けもだしのうまみを生かして薄味でもおいしくなるように工夫しています。今回のレシピ集は、栄養教諭・学校栄養職員のごだわりをギュッと凝縮させ、地元でとれた新鮮で安心安全な食材（小松菜・春菊・はもなど）のレシピ、防府市と交流のある

きゅうしょくレシピ 防府用

学校給食レシピ集表紙



学校給食レシピ集をご覧いただけます。

セルビア共和国のレシピ、学校給食の人気メニューの紹介もしています。このレシピ集を作成するにあたり、ICTの得意な栄養教諭・学校栄養職員は、資料作りに力を発揮し、料理が得意な栄養教諭・学校栄養職員は、調理の手際の良さと経験を存分に生かして、このレシピ集を作成しました。17人のメンバー全員が得意分野を生かし、チームワークの良さで完成することが出来たレシピ集です。このレシピ集を児童に配布し、子どもたちが「おうちで作ってもらおう」と目をキラキラさせながら嬉しそうに話す顔を見た時に、色々大変でしたが、作って良かったと実感しました。子どもたちが今後また予測不能な事態にあった時、自分の健康を守るための助けになる一冊になってほしいと思います。作り方を動画でも紹介しています。家庭でも簡単に出来るように、家にあるような材料や道具を使用しました。給食で食べたあのレシピを作ってみたくと思った時に、この本を思い出してもらえると嬉しいです。詳しくは防府市役所ホームページで「給食」と検索すると、この給食レシピ集にアクセスすることが出来ます。是非私たち山口県学校栄養士会防府ブロック会員の熱い思いがたくさん詰まったレシピ集を一度ご覧下さいと思います。この困難な時代をしつかり生き抜くことのできる子どもたちを育てるために、学校給食を通して、今後も子どもたちに寄り添った取組を行っていききたいと思えます。

## しままなや 島の学び舎



笠戸大橋を渡って5き程進むと平成26年3月、廃校となった江の浦小学校校舎を活用して、平成28年に開設された下松市郷土資料展示収蔵室「島の学び舎」に着きます。  
**江の浦小のあゆみがわかる**

学校閉校記念誌」等も展示され、卒業生が当時の写真を見て盛り上がり、子どもが、文集を見て自分のお母さんの子どもの頃の作文を見つけ、お母さんを褒めたりすることがあります。

### むかしのくらし・文化をつたえる

2階に上がると「民俗資料展示室」があります。下松小学校に保存されていた古民具や、一般の方から寄贈された農具、漁具、生活用具等が展示されています。珍しい物としては「のしばさみ」、「鎖帷子（くさりかたびら）」、木製の「産湯桶」などです。社会見学で訪れた児童にとっては、昔のものとの出合いはとてもし新鮮で、「シユロで編まれた「みの」、「炭火アイロン」、「麦の種まき機」などに大変興味を持つそうです。また、「足踏み脱穀機」は、大きいオルゴールに見えます。「台唐」は年配の方には懐かしいようで、人気があります。

明治時代の教科書や江戸期の和本も展示されています。木下藤吉郎が懐か温めた草履を信長に差し出すイラストや「螢の光」の譜面が掲載されているのには驚きます。また、貝原益軒の『三礼口訣』（江戸時代の食事、書信、茶事の作法に関する書）にある、饅頭を食べる方法に興味を湧かします。

### 遺跡から学ぶ

下松市は古墳・遺跡の多いまちで、「埋蔵文化財展示室」（2階）では縄文時代から中世までの市内の遺跡から発掘または採取された多くの出土品が展示されています。

1802年宮洲屋幸吉による宮の洲開発の際に発見された、三角縁盤龍鏡や三角縁神獸鏡は東京国立博物館に収蔵されていますが、展示写真で見ることが出来ます。



ばら積み運搬船模型



シユロで編まれたみの



ブラウン管テレビ



巡航船時刻表



資料館の窓からの風景



地元小学生が作成した紙芝居

宮の洲古墳の発見・鏡の出土から昭和29年、工場拡張により同古墳が完全になくなるまでの出来事を、地元の小学生が紙芝居「宮の洲の鏡」にして、展示室に置いてあります。宮洲屋幸吉が埴常（はにとも）社を建てたこと、地元の人がずっとそのお社を大切にしてきたこと、大正時代にお社が引越したと等が画用紙8枚にまとめて描かれているので、この紙芝居を見ると宮洲古墳・鏡のことが短時間でよく分かります。

### 笠戸島のこと・もの・ひと

2階の廊下は造船のまち江の浦に関係のある展示です。直径が1メートルほどの木製蛇輪、造船工程パネル、船の模型が展示されています。

現在、笠戸島では、小麦や大豆などの穀物を運搬する全長200メートル級のばら積み運搬船を巨大部品を組み合わせて造っています。タイミングがよいと資料館の窓から、背の高いクレーンで大きなブロックが運ばれる様子を見ることが出来ます。

「笠戸島関連展示室」（2階）には、長いひげが特徴で、日本の航空とスキーマの先駆者である長岡外史、両親への孝養を尽くしたおまさ、近代日本を創った矢嶋作郎関係のパネル展示があります。

変わりがゆく風景を惜しむ方の気持ちも感じられます。

そのほか、全館を通じてタイプライター、フィルム編集機、ブラウン管テレビ、4チャンネルステレオなどの懐かしい製品の展示や「図書室のきまり」や「うがいの仕方」などが当時のまま掲示されており、昭和の雰囲気を感じることが出来ます。

住所：〒744-0001 下松市大字笠戸島10032-38  
(旧江の浦小学校)

入館料：無料

開館時間：10時～16時

開館日：火・木・土・日・祝日

休館日：祝日に開館した場合は次の開館日  
年未年始（12月29日から1月3日）  
都合により臨時休館する場合あり

電話番号：0833-52-0860